
令和6年度第1回大山町総合計画審議会

令和6年7月17日（水曜日） 午後2時から午後3時25分
大山町役場 本庁舎2階 第2・3・4会議室

会議次第

1 開 会

2 あいさつ

3 委員委嘱

4 委員自己紹介

5 会長及び副会長選出

6 諮 問

7 議 事

【審議事項】（1）第三次大山町総合計画に係る策定方針（案）について

【報告事項】（1）大山町未来づくり10年プラン（第二次大山町総合計画）の進捗状況調査について

8 そ の 他

9 閉 会

出席者

1 大山町長 竹口 大紀

2 審議会委員（出席委員16人）

林 田 徹 大山町PTA連絡協議会 会長

西 田 菜々子 中山みどりの森保育園愛育会 会長

提 嶋 真知子 大山町人権・同和教育推進協議会

清 見 久 夫 大山町老人クラブ連合会 会長

押 村 行 史 大山町社会福祉協議会 事務局長

福 留 茂 樹 鳥取西部農業協同組合 中山支所支所長

大 許 和 浩 大山森林組合 代表理事組合長

山 根 均 大山町商工会 会長

足 立 敏 雄 大山町観光協会 会長

松 本 将 治 大山町建設業協議会 会長

陶 山 友 文 大山町消防団 団長

松 信 多 榮子 大山町女性団体連絡協議会 会長

荒 金 恵美子 大山町民生児童委員協議会 大山支部副支部長

菰 田 レエ也 鳥取大学地域学部 講師

加 藤 禎 久 鳥取環境大学環境学部 准教授

門 脇 明 子 町民委員

審議会委員（欠席委員 3 人）

藤田 裕利 鳥取県漁業協同組合御来屋支所 総務課長

金田 結花 大山町青年団 団長

本間 唯 町民委員

3 事務局職員

山根 篤大 大山町 地方創生監

山崎 栄一 大山町 総合戦略課 課長

西村 済 大山町 総合戦略課 主任

午後 2 時開会

次第 1 開会

○事務局 それでは定刻になりましたので、ただいまから令和 6 年度第 1 回大山町総合計画審議会を開催したいと思います。私は本日の進行を務めます大山町総合戦略課長の山崎と申します。よろしく願いいたします。それでは初めに、開会にあたりまして、竹口町長からみなさまにご挨拶申し上げます。

次第 2 あいさつ

○大山町長 みなさん改めまして、こんにちは。竹口でございます。本日は大山町総合計画審議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、本日ご出席のみなさまにおかれましては、快く委員をお引き受けいただきまして、本当にありがとうございます。大山町の総合計画ですけれども、現在、平成 28 年に策定をいたしました第二次総合計画が 10 年の計画で推進をしているところでございます。この間、さまざまな事業の取り組みを通じまして、計画の進捗を図ってきているところでございます。その中でも、第二次総合計画の基本構想に掲げております楽しさ自給率の高いまちというものをめざして、職員一同、そして、住民も巻き込みながら、さまざまな取り組みを行ってきたところでございます。しかしながら、現在 8 年 4 か月が経過いたしまして、この間、策定時の社会情勢から大きく状況が変化しているところもございます。例えば、人口減少によります生活利便性の低下ですとか、あるいは経済の縮小によります雇用の減少、さらには若年層の都市部への流出ですとか、災害の激甚化、そういったものが挙げられますけれども、こういった社会の変化に合わせて、大山町をどうやって変えていくのか、それは新しい視点であったり、新しいアイデアであったり、そういったものを次の計画に盛り込みながら、この社会情勢の変化に対応していく必要があるというふうに思っております。大山町の第三次総合計画におきましては、新町合併以降、大山町で計画を立てて、さまざまな事業を推進してきた第一次の計画、あるいは第二次の計画をベースにしながらも、社会情勢の変化等を踏まえた内容にしなごら、第三次の計画をつくり上げ

てまいりたいと思っております。委員のみなさまにおかれましては、今年度来年度、慎重審議いただきながら、これからの大山町の未来に向けた計画づくりにご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

次第3 委員委嘱

○事務局 続きまして、次第によりまして第3委員の委嘱に移ります。町長からみなさまに委嘱状を交付するところがございますが、時間の都合上、代表者のみに交付をさせていただきます。代表者以外の方には、別途事務方で交付いたしますので、ご了承くださいませようお願いします。なお、任期については、大山町総合計画審議会条例に書いてありますが、本日から1年間となります。団体から選出された方もあると思いますが、年度が変わるタイミングで役職が変わられる方もあると思いますので、任期中は、ぜひ委員の継続をお願いしたいと考えておりますが、難しいようでしたら、個別にご相談いただきたいと思います。それでは、委嘱に移ります。大変申し訳ございませんが、名簿順で指名させていただきます。

(委嘱状交付)

次第4 委員自己紹介

○事務局 続いて、式次第の方で第4になりますけれども、委員自己紹介ということになっております。進行の都合上、みなさまからのご挨拶は、後ほど機会を設けます。各委員の確認は、お手元の配席図の方でご確認いただきたいと思います。なお、本日、藤田委員、金田委員、本間委員はご欠席で、菰田委員については、オンラインでご参加ということになっております。

次第5 会長及び副会長選出

○事務局 続いて、会長及び副会長の選出に移りたいと思います。本審議会は、大山町総合計画審議会条例第4条の規定により、会長及び副会長を置くことになっております。会長及び副会長は委員の互選により定めるということになっております。毎回の例によりますと、事務局案を承認いただくという流れになっておりますが、まずは、立候補がないかというところで、立候補はございませんでしょうか。

(立候補者なし)

はい。特にないようですので、事務局から提案をさせていただきたいと思いますが、

事務局案でよろしいでしょうか。

(「よし」と呼ぶ者あり)

ありがとうございます。それではあらかじめ事務局から、会長を山根均委員に、副会長を松信多榮子委員に就任の内諾をいただいておりますが、お二人にお願いしてよろしいでしょうか。

(「よし」と呼ぶ者あり)

ありがとうございます。それでは山根会長、松信副会長、どうぞよろしくお願ひいたします。

次第6 諮問

○事務局 続いて、第6の諮問に移ります。山根会長は、前の方の会長席にご移動をお願いいたします。それでは、竹口町長から、山根会長へ諮問をお願いしたいと思います。

(諮問文読み上げ)

○事務局 本日、竹口町長はこれで退席いたします。以降の議事進行は、山根会長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

次第7 議事

○会長 先ほどご指名いただきました山根でございます。現在、商工会の会長2期目を受けたところでございまして、これから4年目、現在の状況でございます。ご列席のみなさまを前になかなか役不足ではありますけど、また慣れないことでもありますが、1年というか1年足らずといいますか、進行役を務めさせていただきたいと思ひます。意見を出していただきますようお願いいたしますけれども、発言をいただく前には、挙手いただいたら指名させていただきますので、その際にお名前を呼びますので、それ以降に発言をお願いいたします。では、進めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

第三次大山町総合計画に係る策定方針(案)について

○会長 そうしましたら、次第7番の議事に移ります。第三次総合計画に関わる策定方針案について、事務局から説明を求めます。

○事務局 失礼します。総合戦略課の西村と申します。総合計画審議会ということで、少

し難しいところもあるかもしれませんが、いろいろご意見、分からないことも含めて、ご発言いただいて結構ですので、ぜひ、活発にご議論いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。では、座って説明させていただきます。

(資料1及び資料2に沿って説明)

○**会長** 先ほど事務局から説明がありましたが、この場ではいろいろアイデアをいただいて、それを最後にまとめていただくという格好になると思います。忌憚のないところで、ご意見やご質問をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(発言者なし)

今、読んだばかりで分からないこともあると思います。走りながらというか、歩きながら考えていただくということで、とりあえずは、この案の方向性で歩き出していきたいと思います。よろしゅうございますか。

(「よし」と呼ぶ者あり)

帰って読まれて、こうしたほうがいいんじゃないかとかいうところがあったら、また次の会議でお示してください。

大山町未来づくり10年プラン(第二次大山町総合計画)の進捗状況調査について

○**会長** 続きますのは、未来づくり10年プランの進捗状況の調査について、事務局お願いします。

○**事務局** はい。では続きます、報告事項になります。大山町未来づくり10年プランの進捗状況調査について、ご説明をいたします。

(資料3-1及び3-2に沿って説明)

○**会長** 全体の説明となりますけれども、なかなかこれで意見を言うのは難しいと思っています。何かありましたら、これに限らず、進め方に関しては、先ほど話もありましたけれども、ご意見ありましたら、よろしくお願ひしたいと思っています。

○**委員** ただいまの説明で、今後の進め方とも関係してくると思うんですけど、第二次計画の評価のところ、住民の方の意見と行政の実施者の方の意見がありました。行政の方から先に申しますと、進捗の割合が低かった項目、50%が一番下かと思ひますけども、行財政で将来に向けた町を運営していくための中の施策と、次に低かったのは57.5%の

産業のところで、魅力的な仕事を生み出していくためにということですが、おっしゃっていただいたように、施策の効果を計る指標が適切だったかという検討をしながら、この第二次の計画を受けて、今回、第三次の計画を作っていくこととなりますので、例えば、産業の仕事のところは、住民のご意見で若者が魅力を感じるような仕事が町内少ないとか、どこかに行ってしまうというようなところの満足度が低かったというところと関連していると思います。住民の方だと9ページの四次元の重要度と満足度の表があって、すごく分かりやすく四次元でまとめられていて、重要度が高いけれども満足度が低いというAの重点課題のところの満足度がより上がるような方向性を持った第三次の計画を作っていくことが重要ではないかと思います。

○委員 私もこの産業のところに注目しています。うちの子たちも県外に出ている方だと思っているんですが、なぜかという魅力的な仕事場が欲しいというような理由だと思っています。私が思うのは、大山町の良さは、第一次、第二次計画の中に書いてあって、みんなもそれを納得していると思います。ただ、私自身は、目を向けるところがどうかと思うところがあります。それは、若者が魅力的と感じる産業を興すことにあまり偏らなくていいのではないかなと思うところです。地元に戻ってきて起業したいという子どもたちは、帰ってきてそれぞれ起業して頑張っています。そういう子たちを行政の方からも支えることはとても大事なことだと思います。ただ、大山町には、第一次産業が一番あるし、大事であると思うし、ほうったらかしという面もあると思うし、そういうことを思うと、大山町はベッドタウン的な位置でもいいのではないかなと思うところもあります。農業をしたいとUターンしてくる人ももちろんいるし、興味を持つ若者もいると思います。あまり新しいことを起こさなければいけないと考えなくても、大山町の産業のいいところにもっと力を入れていくべきではないかなというふうに思います。最近の世界情勢を見ていて思うのが、こんなにも日本は自給率が低い国だということを改めて感じるような情勢の中で、大山町、日本はもっと自給率を上げていけるような国、地域にしたいなという、しないといけないのではないかな、もっとここに力をいれていくべきではないかなと最近思っています。

○会長 ありがとうございます。私たちの部落でもそうですが、75歳以上でほとんど支えているという状況で、私たちの部落の3分の2は75歳以上で続けていけるのかなという状況です。今、農業公社とか農業会社ができっておりますけども、ああいう会社がどんどんできてくれないかなと思って、これが次世代の農業の形にならざるを得ない、そうでないと生き残っていけないのではないかなという気がします。部落で集まりがありましたけども、耕作放棄地が来年はどのくらい増えるのかという危機たる状況です。農業もうかうかしてられないという感じがしました。ご意見をいただきたいと思いますが、浮かんできたら手挙げていただいて結構です。項目が移っても結構です。

○事務局 後回しにしましたけど、自己紹介を一言ずつみなさんからお話いただいたほうがいいかなと思います。

○会長 はい。自己紹介ということでお願いしたいと思いますが、事務局は最後ですね。

(各委員から自己紹介)

(自己紹介中のご発言は以下に記載)

- 委員 今抱えています高齢者、どこからが高齢者かという線引きは難しいと思うんですけども、人間関係が疎になってきたところで、居場所づくり、高齢者自身も行く場所がなくなってきていると思います。少なくとも集落の中で、高齢者の居場所を確保していこうとしています。高齢化といいながらも地区の中では、高齢者も年齢層の中心になっている現状もあるし、これまでの経験の中で培った知識であるとか、人間関係づくりとか、評価されたものをたくさんお持ちの方もたくさんいらっしゃるの、まちづくりに活かさないかなと考えております。先ほどベッドタウン化のお話がありまして、かつて私の娘がなぜ大山町には体育館がないといけないのか公民館がないといけないのかと、これは少し大げさな話としても、ほかの町や市と同じものを揃えなくても、大山町は大山町でここまでの生活ができれば、体育館に行きたければ米子に行けばいいという、そういう発想もありなのかなとか思いつつ、私はもう一つ、学校教育を少し考えてほしいと思います。地域の良いところを探したり、地域との交流を勧めたりしているけども、結果的に中学校には、どどこへ行ったら学校の評価につながるという風土がありません。特に高校に進学して大学に行くという時点でも、我々は全体の文化の中では、鳥取県では大山町に留まるのは半ば諦めたような人間の選択肢になっていることに疑問を感じていて、いろんな子どもがここに残ってほしいという教育も含めて、我々も家族としてもプライドも、子どもたち孫たちにも伝えながらも、この辺りがみんなに伝わればいいかなと思います。自信がなさそうな大人が多過ぎて、もう少し自信を持って大山町を語る風土を作って、そういう文化をみんなで作り上げていけたら、漠然としたことで到底施策に反映できないかもしれないけども、そういうことを考えています。
- 委員 さっき高齢者の話があったんですけど、私も立場上、高齢者の方と関わる機会が多いです。その中で思うが、楽しさの自給率を高める町、まちづくりということなんだけれども、やっぱり楽しさを求めるには余裕がない、いろいろな面で大山町には楽しめるお年寄りがなかなかいないかなと思います。本当に三度の食事の費用に困っているお年寄りの方も多々あります、その辺りを行政の方で何とか手助けしていただきたいと思いますが、やっぱり楽しさのためにはいろいろな面での余裕というのを何とかしていただきたいと思っています。
- 委員 私が住んでいるところはすごく過疎で、家は多いですが小学生がいる世帯が2軒しかないことにすごい危機感を持っています。私自体は結婚する前に会社勤めをしていたこともあり、若い頃は通勤に毎日40分かかる生活をしていたので、ベッドタウン化という意味も分かるし、なおかつ今、会社勤めから牛の農家で就農しました。牛を飼う仕事の現場にも出ましたし、今は法人化してスタッフさんの賃金の支払いもしているので、一次産業のことも分かります。自分の性格や立場的なことですが、積極的に発言できるタイプの同世代の議員さんとかもいて、そういった情報や声も聞きますが、発言で

きない方の声というのもすごくあると大きく感じていて、こういうアンケートには回答しないだろうという性格の方も見受けられます。そういった声が拾い切れていないだろうなというのを感じるところもあり、そういった日々感じていることを届けられるかなと思いました。

○委員 名和小学校は大体1学年2クラスは維持できていたんですが、このところ学年によっては1クラスに減ってしまっていて、やはり子どもが減ったことと部活などが成り立たなくなってきた現状等々あります。体育祭をするにも対抗するチームができるとか、いろいろ少子化の影響というのを感じています。

○委員 みなさんの中からもありましたけども、私たちのグループも若い人はぎりぎりまで働いておられて、新しいメンバーがなかなか入ってこれない。だんだん組織自体が高齢化していくのを感じております。とことん皆さん働かれて、いざ本当に、止まったときに残りの人生は何もなく終わってしまわれる方が多いのではないかなと思いつつながら、だから私自身もできるだけはボランティアだと思っております。後で説明してほしいんですけど、今回のこの審議会とワーキンググループとの兼ね合い等で私たちが審議会としてやるべきこととワーキンググループとの関係をみなさんに説明してほしいと思います。

○委員 今米子市でひきこもりを中心に当事者の方と一緒に話ししながら、どういうまちづくりができるだろうかというアクションリサーチみたいなものを進めています。あとは鳥取市と関金の倉吉の方では、食品アクセス、買い物環境が悪化するというのがニュースでも取り上げられていると思うんですけども、その問題に関して、取り組んだりしておりますので、そうした点でもみなさんと情報共有ができればいいなと考えております。

○委員 私の専門は緑地計画、それからグリーンインフラという自然の恵みをどのように活用して土地利用とか社会資本整備をしていくかっていうところですけども、自然保全だとか、第一次の計画でいうと環境のところですね、自然環境の保全であるとか、特に大山が一番全国的に有名ですので、大山の美しい自然を活用した地域づくりであるとか、観光につなげていくようなところで、何か専門的な意見が言えるかなというふうに考えております。

○事務局 今回審議会立ち上げまでも議会等でいろいろ議論いただいております、議会の方からも、未来を担う若い世代も策定の段階に加われないかとか、そういった配慮をしてほしいというような意見もありました。後ほどご説明申し上げますけども、ワーキンググループやタスクフォースのレベルの段階でなんとかそういった若い方々の意見を反映させる方法をとっていきたいと思っております。今日いきなり資料をお配りして、すぐ意見をいただくというのはなかなか難しいと思いますので、次回の会もありますけど、そこまで待たなくても、思いつかれたら我々にご連絡をいただいたらと思います。

○会長 意見はどのように伝えればいいか。

○事務局 電話でもメールでも開催案内の問合せ先に入れていただけたらと思います。

○会長 さきほどの質問、審議会は、我々は自由に意見出して、それをまとめてもらうの

がワーキンググループと考えて。

○事務局 審議会は、計画案になったものをご審議いただきますので、それを見ていただいて、もっとこういった視点があったほうがいいんじゃないかとか忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。一方でワーキンググループは、この審議会に計画案を出させていただくまでに、実務的な部分ですとか、事業に関することですか、そういった細かいところをいろいろ議論させていただいて、それを計画案として審議会に上げていただくように準備をする会という位置づけにしております。こういったご説明でよろしいでしょうか。

○会長 分かりましたか。

○委員 はい、大丈夫です。ワーキンググループは別に作ってくださるわけですね。

○会長 ほかにないですか。なければ今回の会は閉会とさせていただきますが、よろしゅうございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

みなさま、お忙しい中、ありがとうございました。次回は、予定では12月、時間がゆっくりありますので、ご意見なり考え方なりを改めておいていただければと思います。どうも今日のご苦労さまでした。ありがとうございました。

次第8 その他

○事務局

(事務局からの事務連絡)

次第9 閉会

午後3時25分閉会